

思いやりを育てる学級づくり
～ お互いのよさを認め合うことを通して～

目 次

I	テーマ設定の理由	45
II	研究仮説	45
III	研究の全体構想図	46
IV	研究内容	
1.	思いやりを育てる	47
(1)	思いやりとは何か	
(2)	思いやりを育てる	48
2.	学級経営とは	54
(1)	学級経営の意義と機能	
(2)	学校、学年、学級経営	
(3)	学級経営を進めるための基本的配慮事項	55
(4)	学級経営についての基本的な考え方	57
(5)	学級経営の捉え方	57
3.	個の存在を大切にする学級経営	58
(1)	個を生かす学級経営	59
(2)	望ましい学級集団	
IV.	実践例	61
V.	研究の成果と今後の課題	66

宜野湾市立真志喜中学校
仲村渠 万寿子

思いやりを育てる学級づくり ～お互いのよさを認め合うことを通して～

宜野湾市立真志喜中学校教諭 仲村渠 万寿子

I テーマ設定の理由

学級は学校における学習や生活の場であり、担任と生徒、生徒どうしの心の触れ合う場でなければならない。そこで生徒は互いにいろんなことを学び、協力し合って成長していく。

ところで私が毎年学級担任として目指す学級像は、「思いやりのある学級・思いやりのある生徒」である。父母の願いの中にも「思いやりのある優しい子」をあげることが多く、新学習指導要領の改訂の基本方針にも「生命を尊重する心や他人を思いやる心を育てること」と明記されているからである。では思いやりとは何であろうか。私は思いやりとは相手の立場になって考え、行動することだと思う。また思いやりの心があれば、今日問題になっているいじめもなくなるものと考ええる。

では、どうすれば思いやりの心を育てることができるのであろう。もちろん私たち教師が思いやりの心で生徒に接することも大事だが、私は命の大切や思いやりについて、常に機会をとらえて生徒に話し、自分ならどうするか考えさせたり、その感想を学級通信に載せたりした。また日々の生活の中で生徒のよい行いをとりあげ、朝の会や帰りの会で称賛することにした。確かに掃除が早く終わった人を手伝ってあげるとか給食が足りないときは自分の分を分けてあげることが見られるようになったが、人のものを隠したり、傷つけるようなことをいう生徒がいる。

今までの私の学級経営をふりかえると、実践計画が不十分であったために、生徒一人ひとりがお互いの個性を認め、協力し合いながら係活動やグループ活動に取り組むことが少なかったように思う。

このようなことから、思いやりはお互いをよく知り、共感できる関係でなければ育たないのではないか。仲間意識を育てることが思いやりを育てることにつながるだろうか。そんなふうに考えるようになった。

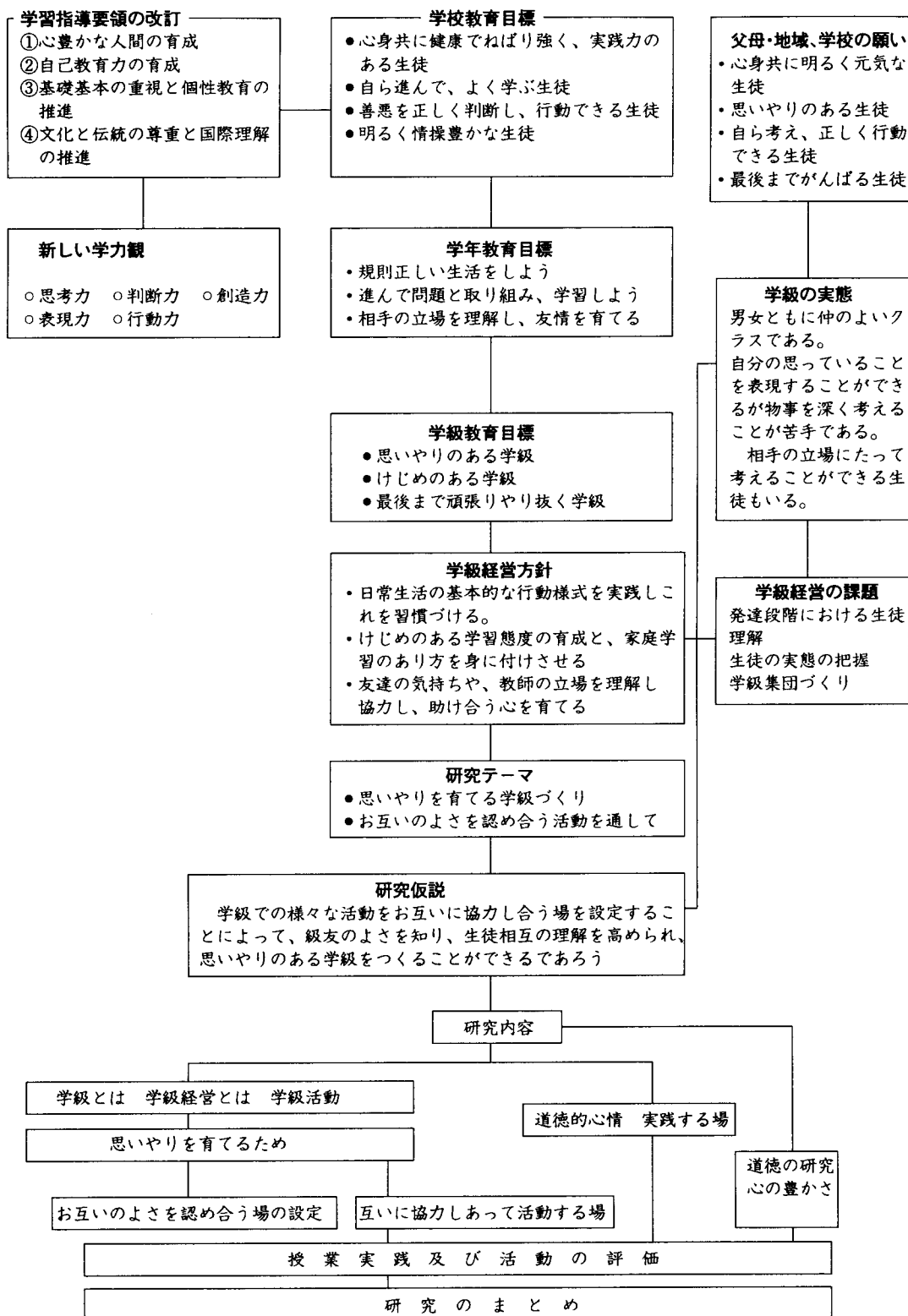
この学級の実態をふまえ、学級での諸活動を通して級友のよさをわからせると同時に自分自身のよさに気づかせながら、お互いに協力し合いながら学級内の様々な活動に取り組ませる。

このようにすることによって、生徒相互の理解を深め、仲間意識を高めることができれば、思いやりのある学級をつくることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説

学級での様々な活動をお互いに協力し合う場を設定し、諸活動を行うことによって、級友のよさを知り、生徒相互の理解が高められ、思いやりのある学級をつくることができるであろう。

III 研究の全体構想図



Ⅳ 研究内容

1. 思いやりを育てる

(1) 思いやりとは何か

「思いやり（思遣）」は①推し量る、推量、想像、②気のつくこと、即ち、思慮③自分の身に比べて人の身について思うこと、などの意味に用いられてきたと思われる。今、問題となっているのは共感としての「思いやり」であるが、このような「思い」を「遣う」という言葉の持つ内容からも、「思いやり」には、推量、想像、思慮などという心の働きを伴うことが考えられる。

「思いやり」には思いやる対象、すなわち他の人となる相手が存在する。その人がこれまでに何をしてきたか、現在どういう状況にあるのか。今、何を喜び、何を悩み苦しんでいるか。他人に何をしてほしいと望み、何をしてほしいと思っていないかなど、「思いやり」は、相手の心や状況を推し量り、想像する心である。言うまでもなく、相手の弱点や欠点を思い、それにつけ込んで相手を窮地におとし入れる心ではない。「思いやり」は愛の心であり、温かく相手の心を推し量る心である。例えば相手がかわいがっていたペットの小鳥が死んで、悲しんでいるに相違ないと推し量り、想像する心である。

推量、想像するということは、自分がもしそのような立場におかれたら、どのように痛みを感じるか、他人にどのようにしてほしいか、とまず自分の体験としてとらえ、それを基にして相手の心や立場を推し量ることである。推量想像の上での共同体験を求めるものといえよう。

「わが身をつねって他人の痛さを知れ」など、昔から伝えられる諺は、このような「思いやり」を教えたものといえよう。

「思いやり」には、このように、単に事態に直接的に反応するのではなく、知的な推し量る心が求められている。だれかの助けがなければ自主的に勉強しようとしにくい依頼心の強い子に対して、先生に怒られるのはかわいそうだと思い、いつも代わりに宿題をし、安易に答えを教えることが「思いやり」であろうか。このように、「思いやり」には、推し量る心のみではなく、「思いやり」を行為に移すに当たって、ここで何をなすべきか、なすべきでないかと考えなければならない。適切な判断が伴わないと、かえって相手をそこなうことになる。

「思いやり」を受けたとき、人が常にそのことに感謝するとは限らない。「思いやり」を、ただ人間の直接的な感情にとどめる限り、例えば、その範囲における親切は相手にとっておせっかいとなり、やさしさがなれなれしい甘えになりかねない。時に屈辱を感じる場合もないとはいえない。「思いやり」がそのまま受けとられないのは残念なことであるが、悲しみや苦しみの中にあると、人間はしばしば心の素直さを失うものである。そこで「思いやり」には、さらにこのような人の心に対する温かい配

慮が求められることになる。仲間の間ではいうまでもなく、親から子へ、教師から生徒へ、地位や年齢差のある人との間の「思いやり」の場合にも、その「思いやり」が相手を傷つけることのないよう、細心で慎重な配慮が望まれる。

(2) 思いやりの心を育てる

学校生活においては、すべての教育活動を通して、思いやりの心を育てるように配慮することが大切である。そのために道徳の時間を中心とし、各教科、特別活動でどのように指導すればいいか、学校と家庭、地域社会との連携の方法について考えてみる。

① 思いやりを育てる日常活動

ア 朝と帰りの学級の時間の工夫

小学校時代はいわゆる“子ども時代”であり、開放的で明るく、何でも表出しこだわらない時期である。いわば自己をどんどん外へ表出することによって「社会性」が伸びてくる時期なのである。

だが中学生になると、明確に思春期に突入し、他人に自分がどう見つめられ、どう評価されているかということが絶対的な評価基準となってくる。そのため、学級会などでは小学生時代とまるで違って発言しなくなり、話題を提供しても小学生の時のように、すぐに飛びついてはこなくなってくる。それは、まず自然な発達によるもので、決して教師の指導力によるものではない。まずそのことを認識して指導に当たる必要がある。

「思いやりの心」も同様に、小学校時代までは何のこだわりもなく行為として表出できたものが、思春期に入ると素直に表せなくなってくる。「思いやり」の心がないのではなく、「行為に表せない」のである。また、だれにでも行為としてしていたものが、ごく親しい間柄のみにしか表せなくなってくる。

これらの成長発達の過程を十分認識した上で、学級経営を進めていくことが大切である。

この時期の「朝の会、帰りの会」の持ち方は、当然小学校のときの持ち方と、その方法を異にする。

○ 生徒に“よい行為”を見つけさせる

特に一年生段階に有効な方法である。学級が編成された一学期のうちにこの方法を浸透させておくといよい。

学級の仲間のよい点、うれしかった点、助かった点、感心させられた点など“よさ”を見つけだし、みんなに広め、みんなで認め合うものである。紹介されたら教師も含め学級全体で拍手で認め、称賛を形に示す。

始めのうちはなんとなくぎこちなく照れた感じで行っているが、慣れるに従いスムーズに出せるようになってくる。「A子さんは毎朝早く来て教室の中をきれいにしている。とてもえらいと思う」とか、「B君、C君、D君は班の活

動をとってもよくやっていました」とか、一年生ならではの話題がいろいろ出される。

他人のよいところを見出す目を持つことは、思いやりの心の基礎である。

○ 教師自身が“生徒のよい行為”を見つける

どんなささいなことでも、その生徒自身が成長した、よくなった、と思われることや、他人に対して行ったよい行為と思われるものは、取り上げ、称賛し、学級通信などに載せたり、朝の会や帰りの会で紹介する。

2 - 4 学級通信 No. 7		発行 2-4班 仲村綾乃寿子
「いいところ」見つけた！その1		
1	宮城寿昭	明るくなりました。でもおしゃべりに気をつけよう。
2	大兼久信也	何でもはじめに一生懸命がんばってくれるね。ありがとう。
3	小橋川博史	細かいことで、みんなのために頑張ってくれる。ありがとう。
4	米須一史	注意されたら、すぐに直すことができる。(シャツはきちんと着て)
5	大山朝太郎	1年生の頃より、動作が少し機敏になった。(でももっと努力して)
6	飯吉亮丞	表情が優しくなりました。でも髪を直してね。掃除もきちんとね。
7	奥原彰市	おしゃべりがなくなると素晴らしいね。
8	宮平大士郎	英語の学習を頑張るようになった。(おしゃべりに注意)
9	宮里廣治	与えられたことはきちんと頑張ってくれる。元気出して！
10	宮城龍治	自分で考えて行動できる。何事にも一生懸命。
11	上江洲由一郎	はじめでおとなしいが、登校は早めに。
12	新垣剛利	英語のワークを頑張った。(掃除もきちんとやってね)
13	奥原亨	居眠りが減った。でも席立ちに気をつけよう。
14	宮里興明	数学の授業態度がよくなった。英語もそうなるといいね。
15	天久重二	出席簿係としてがんばっている。ありがとう。
16	大嶺哲也	明るくなった。(でもおしゃべりも増えた)
17	森宣宏之	明るさはクラス1。でもおしゃべりが...
担任から～ 久々に登校して、子供たちのよくなったこと、目についたことを中心にまとめてみました。 意外だなと思われる方もおられるかと思いますが、学校での様子の一つとしてとらえて下さい。 何はさておき、これからも子供たちのよい面を引き出していきたいものです。お互いに頑張ってみよう。		
31	佐久川康幸	居眠りが減ったような気がする。(でもおしゃべりを直してね)
32	宮城真希子	友達がふえた。もっと先生にもいろんな話を聞かせて下さい。
33	与座真代	学習に対して頑張るようになった(席立ち、おしゃべりを直して)
34	奥原直子	表情がよくなった。級長として頑張って。期待しています。
35	宮 紗羽	明るいのはとてもいいこと。でもおしゃべりに気をつけよう。
36	石川千春	友達の面倒をよく見てあげる。みんなにも優しくね。
37	桐井智子	与えられたことはきちんとやってくれる。言葉使いもきれい。
38	海勢園オリエ	明るく元気。表情もいいね。学級の仕事も期待しています。
39	内田圭美	与えられたことをきちんとやってくれる。
40	小野寺由加里	明るくなった。でもいろんな人とお話できるともっといいね。
41	安仁麻理沙	与えられたことはきちんとやってくれる。(マンガはだめだよ)
42	大江はるな	毎日、楽しそうだね。でも学級の仕事も勉強も頑張って下さい。
43	宮良真由美	教室の掃除を最後まで頑張ってやっている。廊上部での居眠りめどつ
44	長岡聡子	明るくなった。もっとみんなとおしゃべりするといいね。
45	比嘉なつみ	教室の掃除を最後まで頑張ってやっている。
46	島袋文乃	何でもきちんとできる。クラスのためにも頑張ってくれると嬉しいな
47	平良梨絵	自分で考えて行動できる。
48	神岡麗子	学校に来て！待っています。
49	山城さつき	1学期の勉強頑張ったみたいですね。でも朝の登校は早めに。
50	比嘉亜希乃	転校してきたのに、友達が多い。

○ 班で朝や帰りの会の持ち方を工夫させる。

二年生ごろからは、教師の発案よりも、生徒どうして持ち方を工夫させることがより効果的である。

各班に司会を輪番制にして一週間ずつ割り当てる。この方法は日直のようにただ単に出席簿順で機械的に割り当てるものと違い、班の中での創意が生かされるために、生徒も意欲的になる。

生徒が自主的に話し合っ持ち方を決める場合には、少なからず“遊び的要素”が加わるが、それは学級の潤滑油としての働きをし、遊び的要素を媒体として学級が丸となり、まとまっていく雰囲気づくりに役立つ。

今の生徒は、単なるバカ騒ぎ的な遊びよりむしろ、クイズ的な方が興味を示す傾向にある。教師の事前アドバイスにより、クイズに社会科とか理科とか教育的要素を取り入れるように工夫させるとよい。そして答えるのを班あるいは座席ごとの対抗にするとよい。

学級の生徒どうしがそれぞれに親しみ合い、信頼し合い、“わがクラス意識”を持たせることは大変重要である。その際、教師も生徒の一員となりきって加わることが大切である。

○ マイ＝メッセージを多く出させる

朝の会や帰りの会はとかく事務連絡に終始がちな傾向がある。学級経営の一部として位置づけがなされていないことによるものと思われる。

給食時間などを除けば、生徒どうしが学級の中で自主的にふれ合う時間は極めて少ない。その意味から朝や帰りの会は生徒どうしのふれ合いを増す、また学級集団としての結束を高める重要な機会である。

生徒どうしのふれ合いを増し、思いやりの心を育てる上で「マイ＝メッセージ（私メッセージ）」は効果的である。マイ＝メッセージは他人がどうした、こうしたではなく、「私は〇〇だった」とか、「A子さんが〇〇だったので、とてもうれしかった」など、自分のメッセージを学級の仲間に送るのである。

ある学級で、不登校傾向のB子が久々に恐る恐る登校したとき、帰りの会でF子が「今日はB子さんが登校して一緒にすごせたので、とてもうれしかった。明日もみんなとB子さんが遊べるといいなと思います」とメッセージを送った。そのことによってB子は友人のF子がそれほどまでに自分の登校を喜んで期待してくれていることにいたく感激し、翌日から登校するようになったという実例がある。

学級の一人ひとりが、互いにマイ＝メッセージを級友に送り届けられるようになれば、自然に思いやりの心が育ってくる。思いやりとは、放っておいても自然に育ってくるものではなく、教えられなければ育たない。また知識理解のみではやはり育たない。このように朝や帰りの会などを有効に工夫し、生徒の手で短時間だが温かいふれ合いの時間をつくり、ふやしていくことによって、

互いを尊重し合う思いやりの心が育てられる。

朝と帰りの会で合計15分しか取れなくても、年間240日あれば、一年間で延べ60時間ものふれ合いの時間をつくることができる。教師の裁量で創意を生かせる時間を大切に活用したいものである。

イ 個人面談の実施

各学期ごとに中間テスト、期末テストの前後に放課後や道徳、学活の時間を利用して生徒全員の面談を行う。一人あたり5～10分くらいを目安にして実施している。

テスト前後なので、家庭学習の仕方や苦手科目の克服など学習面での相談が中心になりがちだが、ふだんの生活の中で困っていることはないか、悩んでいることはないか、毎日の生活点検ノートの反省を参考にしながら、その生徒にとって必要だと思われることを話題にすることになっている。

最初は担任と向き合って相談することに抵抗を感じる生徒も中にはいるが、他の生徒の前では聞けないことや、言えないことを正直に話すようになる。

そのときに最も大事なことは、生徒の身になって真剣に聞く態度であろう。「こんなくだらないことで」などとは決して思わずに、共に考え、解決していこうとすることが大切だと思う。

まだ個人的に相談が必要だと思われる生徒は、絶えず機会をとらえて相談に応じるように心がけている。

ウ 生活点検ノートの実施

本校では全クラスで帰りの会に生活点検表を書かせることにしている。起床登校・下校まで、学習態度、給食、清掃時間、学校での一日を自己評価させている。そして最後に一言で自分の意見＝マイメッセージを書かせることにしている。学級担任は、生活点検表をもとにその生徒の一日を把握し、コメントを書く。「今日は○○だったのよかった」「友達のA子さんがお休みだったので、さびしかった」などと生徒は書いてくる。中には、自分の悩みや今、問題になっている話題について意見を書く生徒もいる。

そのような考えの材料になる文は時々全員に紹介し、考えさせたり、道徳や学活の時間に利用するようにしている。

このような工夫のもとに行い、次第に教師の考えを入れながら、中味を思いやりとか、人間尊重、個性尊重などの価値にふれた記述ができるように助言していきたいと考える。

エ ゲームを取り入れた温かい学級づくり

学級の人間関係をより深めるために、集団で行うゲームを取り入れることは有効である。

ともすれば、ファミコンやビデオ、そして学習塾などと、生徒たちは友だちと遊ぶ機会は小学生の時代から極端に少なくなっている。そのため、人間関係

を上手につなげたり、維持していくことや共に楽しみ、共に苦しむという感情が育たず、自分だけという考えが助長されてきている。集団で何かを行い楽しむというすべを経験的に知らないのである。

その意味で、親しい人間関係であるべき学級を単位としたレクリエーションとしてのゲームを行うことは意味あることである。

学級活動などにゲーム等レクリエーションを行うことによって、生徒が各自の特技・能力・性格などを知り合いお互いに相手を尊重し思いやる心情を育てたい。その結果、自分のわがままを抑え、仲間とのつき合いができるようになり、集団の協力が生まれる。また日頃のギスギスした人間関係に潤いを与え、人間関係の潤滑油の働きもする。

学級でのゲーム等を行う場合、学級担任は学級集団の仲間づくりを生徒の組織を生かして、生徒の手で準備や計画を立てていく過程を重視していくことが大切である。

しかし、レクリエーションをすることが目的ではなく、レクリエーションを通して「楽しく規律正しい人間関係を築く」ことが第一の目標であることを忘れてはならない。

次に学級の人間関係を高め、思いやりの心を育てるゲームやレクリエーションの例をあげる。

「1」班対抗漢字しりとりゲーム 班や男女の対抗で行う

- ① 各班長、あるいは男女でジャンケンをする。
- ② 勝った者が黒板に一つの漢字を書く。

次に負けたチームの者が黒板にかかれた漢字の部首を使った別の漢字を書く。

次に勝ったチームの二番手がさらに負けたチームの書いた漢字の一部首を使った別の字を書く。

次に負けたチームが同様に書く。

というように、交互に一部首を使った別の漢字を書いていくゲームである。

30秒以内に書けなかった場合は1点減点して次の者にバトンタッチをする。減点が5点とか10点に達したらゲームセットにする。負けたチームが一曲合唱するようにすると真剣味も出ておもしろい。

注意

同じ漢字を二度使ってはいけない。

同じ部首を三回続けて使ってはいけない。 (例) 実 寂 穴

使うのを部首ではなく同じ文字でもよい。

(例) 学校 校門 門番 人間 間食 食事 事件

書けなくなった班が負けになる。

「2」さむらい・商人 男女または班対抗

一人ずつ向かい合って座る。

一方が「さむらいでござる」といって腰の刀を抜く格好をする。

相手は「商人でござる」といってひざに手をつき頭を深く下げる。そして次に「さむらいでござる」といって腰に手をやる。

交互に「さむらいでござる」「商人でござる」をくり返す。同じことをくり返してもよい。(商人－商人)

いった相手と同じ動作をしてしまった方が負けで、同じ班の次の人に交代する。こうしてどちらかの班が全員負けてしまったら終わりである。

このゲームの場合、体力や学力はあまり関係なく、勘や瞬間の判断や予想が大事なため、日頃目立たない生徒や、いじめられがちな生徒が活躍することがよくあり、楽しくできる。

ゲームは、これら以外に無限といえるほどある。室内、室外ゲーム集など、いろいろな種類の本が安く販売されているので購入して参考にするといよい。

思いやりを育てるためには、体力や学力、または敏捷性などで大きな差のつくゲームは避ける方がよい。みんなが楽しく、しかも個人の差があまりつかず、そして一人でも欠けていてはできないゲームは班の結束力を高めるので効果的である。教師も必ず共に加わり、生徒レベルで行うことも大切である。

② 道徳における指導

道徳の時間では、道徳的実践力を育てることがねらいである。生徒一人ひとりが道義的な諸価値を主体的に把握し、現在および将来に出あうであろう様々な場面、状況においても、価値を実現するための最も適切な行為を選択し、実践することが可能となるような内面的資質を育てることである。

動植物に対してもつ優しい心、相手に対する思いやりの心は、どの生徒も、もともと持っている。このような思いやりの心は、道義的行為をする上での基盤となる心の働きであり、道徳の内容と関連づけて指導することによって、内面化を一層図ることができる。

そこで、道徳の時間においては思いやりの心に関連ある道徳的価値を中心に、適切な資料を用い、感動や共感を大切にしながら多様な人間の生き方や物の見方について考えさせ、思いやりにかかわる経験を豊かに与えることが大切である。また思いやりの心を具体的に行動に表すためには、自らの心の働きとしてくそうせざるを得ないくそうすることが善であるくという心情が高まってこそ、はじめて可能になる。そのためには、生徒一人ひとりに指導の過程で相手の心の痛みがわかる心を育て、相手の立場になって考えさせることが重要である。

③ 各教科、特別活動における指導

各教科の指導において、教科の直接のねらいにはないが、それに付随して思いやりの心をその過程で随時できる場合がある。特別活動等、いずれの場合においてもいつでも他人の温かい思いやりに対する豊かな感受性を育て、思いやりの心を深く

とらえ、大切にしようとする努力が大切である。

(4) 学校と家庭・地域社会との連携による指導

生徒の活動の場は主に学校や家庭、地域社会であるが、中でも家庭や地域社会の影響力は、その生活時間の長さからかなりの比重を占めている。したがって心の豊かさ・思いやりの心を育てる基盤は、まず家庭や地域社会であるといえよう。

もちろん、学校教育ではその機能を生かした指導が必要であり、家庭や地域社会の教育力を補うようにすることも忘れてはいけない。指導の効果を高めるためには、それぞれの教育方針をよく話し合い、共通の目標をもち、互いに連携、協力し合うことが大切である。

2 学級経営とは

(1) 学級経営の意義と機能

学級とは、同じ学年の生徒で構成された、学級教育を進める基本的な単位集団であり、学習や生活の場でもある。そして学級経営とは、学校の教育目標の実現を目指し、学級としての計画に基づいて、学級におけるすべての教育活動を効果的に進めていくことである。その際、学級の目標を立て、教室環境の整備、学習指導、生徒指導、保護者・地域との連携など十分な配慮がされることが大切である。

学級担任は教育目標の実現のために、意図的、計画的かつ継続的に経営的手腕を発揮しながら、学級をまとまりのある学習・生活集団につくりあげていく。そのための学級担任の教育的配慮のすべてが学級経営の機能であるといえる。

学級担任を中心に、学年の教師集団が、各自の特性・能力などを十分に発揮し、協同して積極的、意図的に指導に当たる必要がある。教科担任はもちろんのこと、生徒会、クラブや部活動顧問などとの連携もきわめて重要である。

(2) 学校・学年・学級経営

学校・学年・学級経営は、それぞれ組織の活動に違いがあっても、学校教育目標の達成を目指すということに変わりがない。そこで、学年・学級の独自性を尊重しながら、学校の教育目標を実現するために三者が常に連携を保ちながら、一貫性をもった指導が推進されなければならない。

そのためには、学校の教育目標、指導の重点は、共通の認識の上に立つ全教師の創意によって定めなければならない。その実現のために全教師が一致協力して、組織的に努力を重ねていかなければならない。

学年経営は、同一学年の教師が協同して、組織的、計画的に学校が目指す目標に向かって努力する営みである。また、学級は学級の独自性を発揮しながら、学校の教育目標を実現するための場である。

このように学級を学校経営の核としておさえ、学級担任は、学年経営の方針を尊重しながら学級経営の基本姿勢を確立し、生徒の実態に即した学級経営を進めていかなければならないであろう。

(3) 学級経営を効果的に進めるための基本的配慮事項

① 望ましい学級集団の育成

学級集団を指導するには、学級の性格をよく把握し、すべての生徒に集団活動とのかかわりをもたせることが何よりも大切である。そして個々の生徒自らがその活動を観察し、その方向を自分たちで是正しながら活動するように、援助、指導していかなければならない。

さらに学級集団が望ましい生活をすることによって、個人が集団に働きかけることができ、集団の向上が個人に影響をもたらすことができるような、一人ひとりが生かされる教育的な活動が実現されなければならない。

なおここで大切なことは、学級集団の活動もそれ自体が目的ではないということである。つまり一人ひとりの望ましい成長のための学級集団であるということを中心すべきである。

② 生氣にあふれた学級集団づくり

個人がある特定の集団に適応しながら自己の確立を図るための指導にあたっては、まず一人ひとりの生徒の人格を尊重することを基調とする必要がある。と同時に、集団の個性化を図るように考えていかなければならない。

学級はその学級担任や、一部の生徒の独断によって活動するものではあってはならないのである。学級成員の意思による活動によって、学級集団の方向と価値を決定するものと考えたい。

学級には、学級目標達成にあたって阻害となる要因が考えられる。学習に遅れのある生徒もいれば、問題行動をもつ生徒もいる。また、身体に障害をもつ生徒もいるだろう。これらの生徒に対する十分な配慮をもった取り組みが重要である。このための方法として、学級の集団を育て、小集団（学習班・生活班）の助け合いを通して、個々の生徒に「やる気」を起こさせ、意欲をつくり、小集団の活動を盛り上げて、連帯感を育てることが大切である。

学級を生き生きとした集団に育てていくためには、学級の生徒全員が共通の目標をよく理解した上で、全員で達成する方法を決め、その活動に充実感を抱かせることによって、学級に対する誇りをもつことができる。

さらに個人の目標も実現でき、一人ひとりが成就感をもつことができるようになると、学級全体の意気が一段と高揚するものである。たとえば、学級対抗競技、各種コンクールなど、学芸的・体育的行事などへの参加が指導のよい機会ともなり得るのである。

③ 意欲を育てる学級集団づくり

一人ひとりの児童生徒は集団活動を通して、人間の成長に欠かすことのできない基本的な欲求としての「所属」「承認」という二つの大きな欲求を充足し、健全な人格を形成していくことができる。共通の目的達成のために生徒が様々な役割を分担し、お互いの役割を理解していくことに大きな意味がある。

担任教師は生徒が自らの力で学級生活に適応していけるように場面設定をしたり、指導の工夫を図ることが大切であると考ええる。

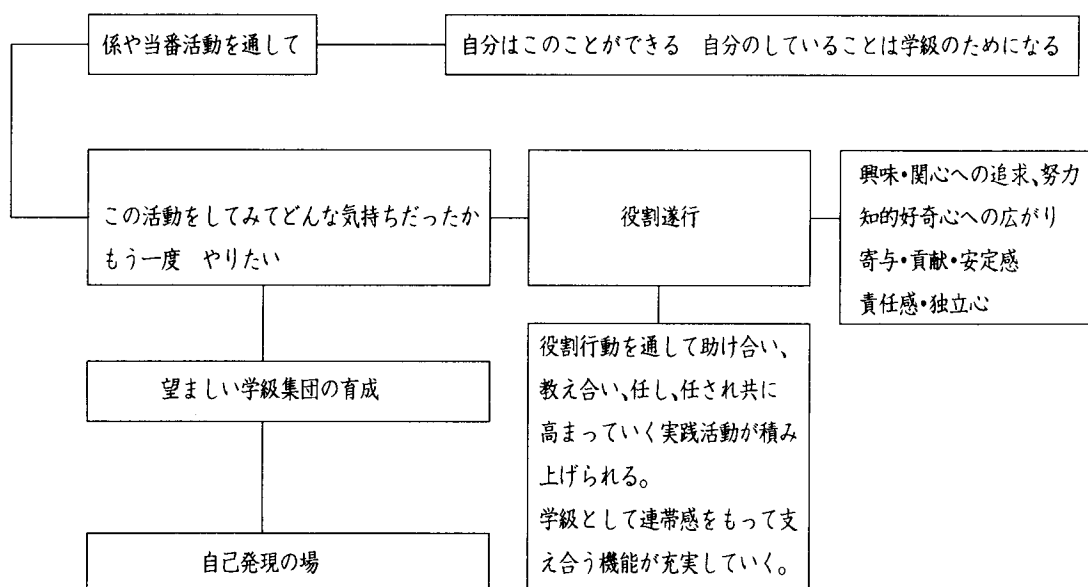
児童生徒の「基本的欲求」を良好な人間関係によって充足させていくことが一人ひとりを大切にすることであり、人間性向上を可能にする。

生徒一人ひとりの社会的欲求には、まず人（他者）に認められたいという欲求を基盤に様々な欲求（願い）が込められている。

一つの役割を得ること、一つの「役割行動」を通して生徒自身が生きがいを持ち、学級生活に喜びと充実感を感じる、個々の生徒が「学校で勉強していると、楽しい、学級の仲間と一緒にいると楽しい」と思えるようにするために、学級の雰囲気づくりが大事である。

自分の考えを持ち、他の生徒に正確に「伝える」ことによって友だちに理解してもらったという喜びを感じさせることが意欲形成にもつながる。そのためにも何でも言える雰囲気、一人ひとりの意見が尊重される環境が大切である。

○ 役割行動の場をつくる



(4) 学級経営についての基本的な考え方

学級経営、及びその内容をどう捉えるかについては人によってそれぞれ異なり、定義することは難しいが、「学校教育方針の下に、学級を単位として展開される様々な教育指導の成果をあげるために必要な諸条件の整備を行い、運営すること」と捉えたい。

そして学級においては、児童生徒一人ひとりが尊重され、個性が十分に発揮され、成長していくとともに、学級集団が一つのまとまりとして活動を展開していくという二つの側面が統一されることが望ましいと考える。

学級は学校における学習や生活の場であり、基礎的な場である。学校教育の基本は学級経営であり、その成果は学級経営のよしあしにかかっている。よい学級経営なくして、よい教科指導は成り立たない。

今日、大きく取り沙汰されている教育現場の問題も、教師と児童生徒、児童生徒相互間の心のふれ合いの少なさからくるものであり、学級経営のあり方が問われている。

また生徒の側から捉えてみれば、楽しい学級づくりを心がけるべきであろう。先にも述べたように、学校の基本単位は学級である。生徒にとって、自分の所属するクラスが楽しくなければ、学校生活全体が楽しいはずはないからである。

学級経営は、学級担任の手腕によるところが大きい。それは学級担任の創意と工夫であり、やる気と努力である。学級内の一人ひとりの生徒の性格や問題行動にも目を向け、担任のアイデアを生かして全力を尽くして学級経営を進めていくことが最も重要であろう。

さらに学校においては児童・生徒一人ひとりがかけがえのない存在として大切にされる教師が常に個に着目し、個性を生かすために一人ひとりの児童・生徒にこだわり続ける姿勢をもつとともに集団のもっている個を育てる役割、すなわち他者とのかわりや集団の一員としての役割などにも配慮しながら指導することも大切である。

(5) 学級経営の捉え方

学級経営について多くの教育学者が概念規定をしているが、学級経営とは「生徒に対する指導の構想（計画）を考え、効率のよい指導を行うための条件づくり」と考えたい。

学校教育は生徒一人ひとりの最大限の発達を目指して展開されるものであり、教科や領域における指導はその直接的な働きである。しかしこのような指導が効率的に行われるためには、学級担任は学級としての構想を立てるとともに、教室などの環境を整備したり、生徒の人間関係を調整したり、楽しく学習できるような雰囲気高めるための条件づくりが必要である。

学級経営の機能は、一人ひとりの生徒がそれぞれ生きがいをもって生活できるように個々の発達を促す条件を整備する営みであり、生徒の人格形成を担うものである。したがって教師は一人ひとりの生徒をかけがえのない存在として大切にするとともに

生徒どうしや教師と生徒との間にお互いの心が通い合う人間関係が育っていけるような学級をつくっていくことが大切である。

特に中学生は精神的に揺れ動く時期である。教師が親身になって生徒を温かく受け容れ、共感的な態度で接していくことにより、精神的に安定し、心が通じ合い、何でも話し合える雰囲気ができるものとする。そうした中では、学級のまとまりも強まり、社会的欲求を満足させ、自由、平等、協力の気風を醸し出し、一人ひとりが意欲的に学級生活がおくれるものとする。

片岡徳雄は、学級づくりの根本的な考えを次のように示している。

(片岡徳雄著「全員が参加する学級づくりハンドブック」P21-22)

1. 心のよりどころ・・・子ども一人ひとりの心のよりどころとなり、支えとなる学級をつくろう。
2. 個性を大事に・・・子ども一人ひとりの特性や願いをそれぞれに大切にしよう。
3. 誰もがリーダーに・・・いろんな集団場面に応じて、どの子もそれぞれリーダーになれるようにしよう。
4. 自由で多様な考えを・・・自由な考えや様々な考え方を大切にしよう。
5. 誤りを大切に・・・まちがいやつまづきを恐れずにそれを糧にしてのびていこう。
6. 創る喜びを・・・集団をつくり、工夫していく喜びを見つけ、求め、大きくしていこう。
7. 協力を・・・お互いに助け合い、力を合わせていこう。支え合おう。
8. 厳しさと思いやり・・・自分に厳しく、相手に思いやりを、という心がけを育てていこう。
9. 人権を・・・どの子の人権を尊重し、どの子にもあるよさ（可能性）を引き出そう。
10. 自立を・・・最終的には、個人も集団も一人立ちできることを目指そう。
11. 教師の変容 以上のことを何よりも教師自らが身に付ける

3. 個の存在を大切にする学級経営

現在、不登校やいじめなどが依然として社会問題となっている。このことは、学校生活において児童・生徒たち個々が「自分が教師からかけがえのない一人として大切にされている」実感をもつ場面が十分でないことが、その要因の一つであると考えられる。

教師にとって一人ひとりの生徒が、かけがえのない存在として大切にされるとともに、

教師どうしや教師と生徒との間に、お互いの心が通い合うような人間関係が育っていきえるような学級をつくっていくことが大切である。そして、一人ひとりの児童・生徒の基本的欲求をかなえてやり、その言動を尊重し、児童・生徒のあるがままの姿を受け入れることは、この人間関係の基盤となる教師と児童・生徒との信頼関係には欠かせないことなのである。

(1) 個を生かす学級経営

「個を生かす学級経営」とは個々の児童・生徒のよさや可能性、優れている点などを積極的に見だし、それらを生かし伸ばすように常に児童・生徒に焦点をあて、一人ひとりの児童・生徒の学級、学校における自己価値観を感じさせ、成就感を高め、生き生きとし、生きがいのある学校生活がおくれるように学級経営にあたることを考える。「個を生かす学級経営」を目指して次のような実践が考えられる。

① わかりやすい授業の展開により基礎学力の充実に努める。

(児童・生徒の興味関心を引き出し、必要感をもたせる。児童・生徒にできる喜びや、つくる楽しさを味わせ、自己実現の喜びを感じさせる。一人ひとりの児童・生徒の意欲を大切にする。)

② 目標をもたせ、人生設計が立案できるように指導・援助する。

(個人差や家庭の事情などがあり、生徒と教師との信頼関係に基づいた個別の指導が必要である。的確な生徒理解による指導・援助は生徒の実情に合った内容の深いものにし、生徒に与える示唆や影響は大変大きいものがある。)

③ 児童生徒たちがお互いの人格、人権を尊重し合う学級づくりをする。

(道徳の授業を大切にし、心を耕しておく。人の心は弱い。恨んだり、妬んだり、許せなかったりする。他の人の努力やよさを素直に認めることができる広い心を育てておきたい。)

④ 児童生徒の進路意識の高揚と真剣に生きようとする実践力としての意欲、態度の育成(自分も含めて命あるものへの慈しみと尊さを培うことは有効である。生命の誕生を正しく理解することによって、己は世界にたった一人しかいないこと、隣人もまた同じ存在であることを認識させることは大切である。)

かけがえのない自分の存在を認識することによって、真剣に生きようとする態度が生まれ、進路意識の高揚にもつながってくる。様々な活動を通して、自分の特徴をとらえ、個性を生かしながら、常に目標をもち、真剣に生きようとする態度を育てることが大切であろう。)

(2) 望ましい学級集団

学級経営においては、学級経営の目的そのものが一人ひとりの児童生徒を生かすことであり、児童生徒のよさや可能性を見だし、伸ばしていくことが重要であるが、

集団のもっている個を育てる役割、すなわち個とのかかわりや集団の一員としての役割などにも教師は配慮することが必要である。個の特性（能力・性格・興味・関心など）は他とは異なったその児童生徒だけがもっているもの、いわゆる個人的な特質であり、それは集団の中で磨かれ、伸長していくものであろう。したがって個が活かされるような学級集団の雰囲気育て、その学級集団の力によって個が育っていけるような学級集団の指導が大切にされなければならない。

そこで、望ましい学級集団としての雰囲気は

- ① 児童生徒どうしの感情的関係がしっかり落ち着いていること。
 - ② 児童生徒どうしのコミュニケーション等の相互交流が活発であること。
 - ③ 児童生徒たちが行動面で共通性を多くもつこと。
 - ④ 集団への適応性が高いこと。
- 等を目指して醸成させる必要がある。

また

- ① よいことをよいとほめる集団
- ② 失敗や誤りを温かく見守れる集団
- ③ 集団として目標達成に向け、みんなで役割等を分担して活動する集団

等、集団としてのよい個性をもった学級になっていくための規範の確立が欠かせないものであり、学級集団の指導に力点をおいた指導が、一人ひとりの児童生徒を生かす学級経営の充実に結びついていくものと思われる。

それでは、そのような学級集団をつくっていくためには、どのような指導が必要なのであろうか。次の3点をあげてみたい。

- ① 心の悩みや人間関係の問題に関心を

「学級活動」の指導を行う際に心の悩みや人間関係の問題をより多く取り上げ、生徒たちに考えさせる。

- ② 生活の問題解決への取り組みを育てる

どのようにすれば、生徒たちの中に助け合い、励まし合う人間関係を育てることができるのであろうか。それには生徒たちのそれぞれの日常ささいな“こだわり”を「学級活動」の中でくり返してていねいに取り上げて、生徒たちに生活の問題解決の経験をもたせ、生徒たち自身による問題解決の力を育てることが大切である。

例えば生活班の中で男女の気が合わない、班長がしっかりしていない、というように、いつでもくり返し起こるような問題であっても、それについての話し合いを班の中や学級全体の中でていねいに行わせ、問題解決の経験を蓄積させていく。

- ③ コミュニケーションのネットワークを育てる

学級づくりを積極的に実現するためには、コミュニケーションのネットワークを育てることにより、互いの生き方に関心をもち、互いの生き方にかかわりをもっていく

ような風土を育てることが大切である。

そのためには、一つには生活ノート（生活記録）やグループノート（班ノート）による指導を大切にしたい。

グループノートによる指導を重ね合わせることによって、他者の生き方に関心を持ち、かかわりをもつ意識を育てたい。

中学校においては、自分たちの生活の中の問題点を、班長会で集約してから学級全体の話し合いの場にのせるとか、学級の中の組織だった動きがほしい。これも、またコミュニケーションネットワークの中の重要な節目を構成することになる。自分たちの生活の中の問題を自分たちで解決するという点で、レベルを一つあげることになるからである。

例えば、生活の中の問題に気づかせるために“友だちのことで気になること”を書かせたとき、「学級活動」全体での話し合いに先立って、各班に話し合われたことをもとに班長会において問題点をあらかじめ行っておくならば、その問題に取り組んでいくことが必要だと意識が醸成されていくことになる。

V. 実践例

(1) よさを見つける

今日は、友だちのよいところを見つけたいと思います。プリントに友だちのよいところを書き込んでいきましょう。

よいところといっても、いろいろあるでしょう。

- 給食を食べるのが早いとか、
 - 親切にしてくれるとか、
 - 掃除をがんばるとか、
- どんなことでもよいです。

時間は5分です。一人10秒とすると30人で300秒、5分になります。

書けるだけでいいのです。誰からでもいいのです。

では、始めて下さい。

(2) よさの内容を確かめる

書いた内容は、次のどれにあてはまりますか。一番多く書いたものに手をあげましょう。

- ① その人個人のことで、（明るい、走るのがはやいなど）
- ② 自分だけに係わることで、（自分に親切にしてくれる、話を聞いてくれるなど）
- ③ みんなに係わることで（係活動をがんばっている、だれにもやさしい、など）

(3) よさを詳しく考える

プリント（左図）を配り、指示する。

友だちの中から一人選んで、よいところを詳しく書いてみましょう。

今日から順番で書いていきます。

今日は、最初なので、「先生」を書いてみて下さい。

時間は5分です。

いろいろな面から書きましょう。

(4) 気づかなかったよさに気づく

10人の人に発表してもらいます。自分の気づいたことと、気づいていなかったことがあると思います。

気づいていたことは何ですか。気づいていなかったことは何ですか。二つに分けて聞いてみましょう。

気づいていなかったことプリントにメモしながら聞いて下さい。

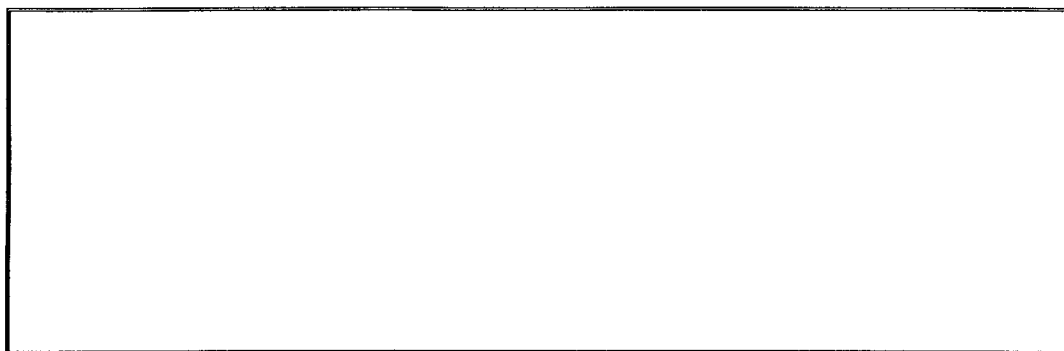
(5) これからの考える

友だちのよいところを認め合うには、これからどんなことをしていけばよいでしょう。

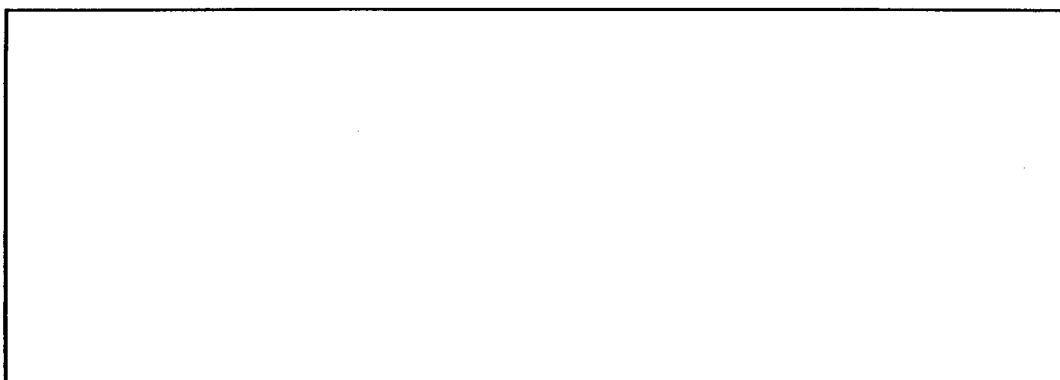
今日の学習で感じたこと、考えたことを書きましょう

友だちのよさをくわしく書こう！ 2年4組 番 名前()

1. () さんのよさをくわしく書こう



2. 自分の気づかなかった () さんのよさ



3. 今日の学習で感じたこと、考えたこと (何でもいいから書いてみましょう)



友だちのよさを見つけよう! 2年4組 番 名前 ()

宮城寿昭 - バスケットボールが上手。 - おとなしいように見えるが、友達が多い。	佐久川奈弓 - 女子バスケット部のマネージャーとしてがんばっている。 - かんぱり屋さん。	大兼久信也 - 勉強でも、何でも一生けん命がんばる。 - 小さな子供の世話が上手。	宮城真希子 口数は多い方ではないけれど、見えないうちでも、まじめにがんばる。	小橋川博史 - 陸上部、長距離でがんばっている。 - そうじが上手。 - うけないジョークが、おもしろかった。
与座真代 - 明るい。素直 - 目標があるとがんばるタイプ	米須一史 - 明るい。友達思い - 負けず嫌いな。 - その負けず嫌いをバネにがんばってくれ。	呉屋直子 - 足が速い。陸上等で活躍 2学期は級長としてがんばってくれた。	大山朝太郎 - 陸上部でがんばっている? 小中陸上(9月)のときはごめんね。 - イラストが、とても上手。	宮砂羽 明るくて、チーミング身長が伸びたらモデルになれるのでは?
徳吉亮丞 - 明るい。元気者。 - クラスを笑わせるのが上手。(義明とのコンビで)	石川千春 - 負けず嫌いな。 - 自分の意見が、はっきりしている。	呉屋彰布 - 集中力がある。 - かんぱり屋さん。 - 体に気をつけてね。	榊井智子 - 礼儀正しい。 - そうじなども最後までがんばってくれる。	宮平大士郎 - おもしろくて、頼りになる人。 - 音楽好き。
海勢頭オリエ - 心優しい女の子。 - 熱があっても、テストをうけた努力家。	宮里憲治 おとなしいけれど、与えられたことは、最後まで、しっかりがんばってくれる。	内田圭美 - 礼儀正しい。 - バンド部の活動がんばっている?! (All give you Kaich's pictures.)	宮城龍治 一言でいうと、しっかりしているけど、たまに大ボケをかます。(うけないジョークを)そこが面白い。	小野寺由加里 おとなしいけれど、自分の意見をしっかりと、持っていて、まわりを冷静に見ている。
上江洲由一郎 マイペースで、まわりには流されることなく行動できる。	安仁屋理沙 - 時々?って思うときもあるけれど、言葉使いがきれい。 - 小説と、まん画をいっぱい読んでいる	新垣則利 - ポニーは、今でもがんばっている? - 明るい。ワークまめ - がんばってくれる。	大江はるな - 朗らか。誰とでも仲よくできる。 - 今でもJリーグのファン?	呉屋享 少し人に甘えてしまうところもあるけれど、最後までやりおえることができる。
宮良真由美 - 陸上部で様々な大会で活躍。表彰される。 - 学年の活動もよくやってくれる	宮里義明 - 明るい。元気者。 - 亮丞とのコンビでみんなを笑わせるや今年1番、成長した人。	長間聡子 - おとなしいけれど、まじめにがんばってくれる - 読書家	天久達二 - おもしろくて、よく気がつく人 - 立合い演説会の時は、ごくろう様。最後まで、よくがんばりました。	比嘉なつみ - テニス部でがんばっている。 - 与えられたことばかりでなく、気がついた人の手伝いなどもよくやっている。
大嶺哲也 スタートは遅いけれど、与えられたことは最後までがんばる。	島袋文乃 しっかり者。頼りになるお姉さん、と感じ。何でも一生けん命がんばる。	屋宜宏之 - 明るい、とにかく明るい、2-4の象徴的存在。 - Do you like Luna Sea?	平良梨絵 - しっかりしているんだけど、たまに大ボケしてくれるところがポイント。 - でも集中力があるのはさすがだよ。	崎間麗子 - くよくよしない。サバサバしている。 - 学校で会いたい。体に気をつけて。
山城さつき - 集中力と理解力は、ひとしに2-4 No.1かもしれない。 - その才能を生かしてほしい。	比嘉亜希乃 - 明るくて、かわいい - こんな妹がいたら楽しいはず。	☆二 Hello, class! 御無沙汰して いますか。 お元気ですか? 先生は 風邪が 治りません。 先日、みんなにかいてもらった 2-4の「友だちのよさ」を先生が1つに まとめてみました。 (一部先生のコメントもあるけど) 読んでみて下さい。 from Masuko 2.		

助け合い学習のあり方

■ 設定の理由

3学期は1年間のまとめの時期でもある。学級の活動のまとめをするとともに、学習面でもまとめをすることになる。また、来年度への意欲につながる大切な学期でもある。そこで、

- ① 自分の弱点を知るとともに、仲間とともに共同で学ぶことの意義を理解させる。
- ② 学び合いの方法について、具体的な実践の方向をさぐらせる。

以上のことを実行することによって、互いに助け合い、思いやる心を育てたいと考え、設定した。

■ 事前の準備

勉強につまづいた時のアンケート＜資料1＞の作成「担任」と実施。〔全員。帰りの会〕→アンケートの集約と分析。〔学習委員。放課後〕

事前打ち合わせ。〔班長会。放課後〕

■ 展開の概要

活動過程	予想される生徒の活動	指導・援助の留意点
◎活動の開始	○プログラムの掲示（書記） ○開会のことば（司会） ○担任の話を聞き、本時の活動への意欲をもつ。 ○授業がわからない時どうしていたか数名に聞く。 ○アンケート＜資料1＞の発表（学習委員） ・感想発表	・担任の成功例をあげ、これからの意欲づけとする。 ・担任が選んで指名する。 ・「この教科については、この人に聞けばわかる」はあとで発表させる
◎活動の展開	○学級の中で、お互いに助け合って学習するには、どうしたらよいか話し合う。 ・グループで討議 ・学級全体で何かできないか ・班の中で何かできないか ・各グループの発表と学級全体でやることを決定する。 ○これからの活動のスローガンと具体的な実践事項を話し合う。 ・グループ討議 ・だれが動くか ・いつ活動するか ・評価はどうするか ・発表と決定 ○「この教科については、この人に聞けばわかる」＜資料1＞をもとに「困った時、あなたを頼りにしています」＜資料2＞を決める。	・学級全体・班の中で、という二つの場面で考えさせる。 ・「自分ならこんなことができるよ」というような個人の役割を出させてよい。 ・スローガンについては、事前に3～4の候補を班長会で作らせ、そこから選択させる。 ・具体的な実践事項は、授業後宿題などの場面を想定させて考えさせる。
◎活動のまとめ	○議事録発表 ○担任の話を聞き、これからの活動への意欲をもつ。	・人気投票にならないように意義を理解させて進める。 ・名前をあげられた生徒には代表として誇りを持たせる。 ・明日からの活動に勇気をもって前進するように励ます。

■ 評価

- ① 学習でわからないところをみんなで力を合わせて解決していこうという雰囲気がつくられたか。
- ② これから具体的に実践できるような方法が話し合われたか。

■ 事後の活動

- 具体的な活動計画表の作成〔班長会。放課後〕とその掲示。〔掲示係。放課後〕
- 実践の取り組みと評価。〔全員。帰りの会〕
- 必要に応じて補習学習。〔該当者。放課後〕

VI. 研究の成果と今後の課題

「いじめ」や「自殺」のニュースが報道されるたびに、教育に携わる人間として胸が痛くなる。そのたびごとにいじめに加わる生徒たちに少しでも思いやりの心があったなと思う。

私が今回、「思いやりを育てる学級づくりーお互いのよさを認め合うことを通して」というテーマで研修したのはそのためであった。

しかし、「思いやり」とは何であるか、言葉でいうのは簡単だが実際に行動に表すことはとても難しい。まして思春期にさしかかり、心の中では「やってあげたい、助けてあげたい」という気持ちをもっていながら、なかなか行動にうつすことができないであろう中学生にとって、このテーマは大きすぎるのではないかと思った。

何から始めていいかわからないまま、教師である一人ひとりのよさを認め、学級の雰囲気高めことにした。そうすることによって、学級の雰囲気もよくなり、お互いのよさを認めることができた。そして最大のイベントである修学旅行を通して、学級のまとまりが、さらに強くなり、学級の中に溶け込めなかった生徒も、明るく学級での活動にも加わるようになった。そのことは今回の研修の成果といえるだろう。

しかし、確かに学級の雰囲気はよくなり、学習にもまじめに取り組む姿勢、お互いに助け合う雰囲気はできつつあるが、果たして「思いやりのある学級」といえるかどうかまだ私自身にはわからない。また計画はしていたものの、諸々の事情により、学級全体で取り組む活動が非常に少なかったのは残念である。何よりも、自分自身のせいで検証授業ができなかったのは反省している。

今後の課題としてお互いのよさを知り、さらに協力し合う活動をさらに学級の活動の中に取り入れていきたいと思う。

おわりに

教育現場を離れて研修に励むことができたのはとても有意義であった。半年という限られた期間で何ができるかと落ち込んだものだが、宜野湾市立教育研究所のみなさん、指導講師の首里中学校教頭の福治貞子先生のおかげで、何とか頑張ることができた。また心よく研修に送り出して下さった真志喜中学校校長、知念繁先生、職員の方、最後にこのような機会を与えて下さった宜野湾市教育委員会に深く感謝したい。本当にありがとうございました。

<主な参考文献>

- | | | | |
|------------------|--------------------|------|------|
| 関根正明 編 | 「思いやりを育てる中学校の学級経営」 | 明治図書 | 1988 |
| 全国中学校学年学級経営研究会 編 | 「個性を生かす中学校学級経営2年」 | 国土社 | 1985 |
| 文部省 | 「思いやりを育てる指導」 | 文部省 | 1986 |